

## 【整備コンセプト】

**歴史と文化の回廊ゾーン** “豊かな自然と潮風がはこんだ歴史と文化に育まれた北の鎌倉”  
 (河岸段丘の中腹部から上部に神社仏閣等、史跡が点在しているので、史跡巡りとこれらの施設を繋ぐ遊歩道整備を行う)

**自然とのふれあいゾーン** “豊かなみどりと多様な生き物の生息空間”  
 (寺泊の山林は、色々な希少植物や昆虫が多く生息しているので、種の保存と観察を行うための歩道を整備する)

**夏戸城ロマンへの誘いゾーン** “上杉二十五将のひとり直江兼継の与力 志田義秀の山城”  
 (天地人で名高い直江兼継の戦略を受け継ぎ、海運を利用した流通産業を盛り上げるための拠点を再現する)

**みのりの里ゾーン** “トキの舞う人と自然にやさしいゆうき農業”  
 ・トキ分散飼育エリア (寺泊は佐渡の地形と似ている処が多く、山林と田畑が入組んでいる地形のため、みどり豊富な自然が多い事から、トキの餌となる水生昆虫や魚が住み着く環境が作りやすい)

**大河津分水ロゾーン** “先人の英知と情熱大河ロマン”  
 (先人、旧守門村、湯之谷村の人足の人たちによって、人工的に作られた河道を、現代の技術によって拡張補強し、市民が安心し安全に暮らせる環境整備を行う)

**海辺の交流拠点ゾーン**

◆西海岸地区 “荒波と歴史に刻まれた地区”  
 (水族館を筆頭に、海の沖には浸食防止のための離岩堤を整備し、内海は海洋生物や小魚の魚影を観察できるエリアを整備する)

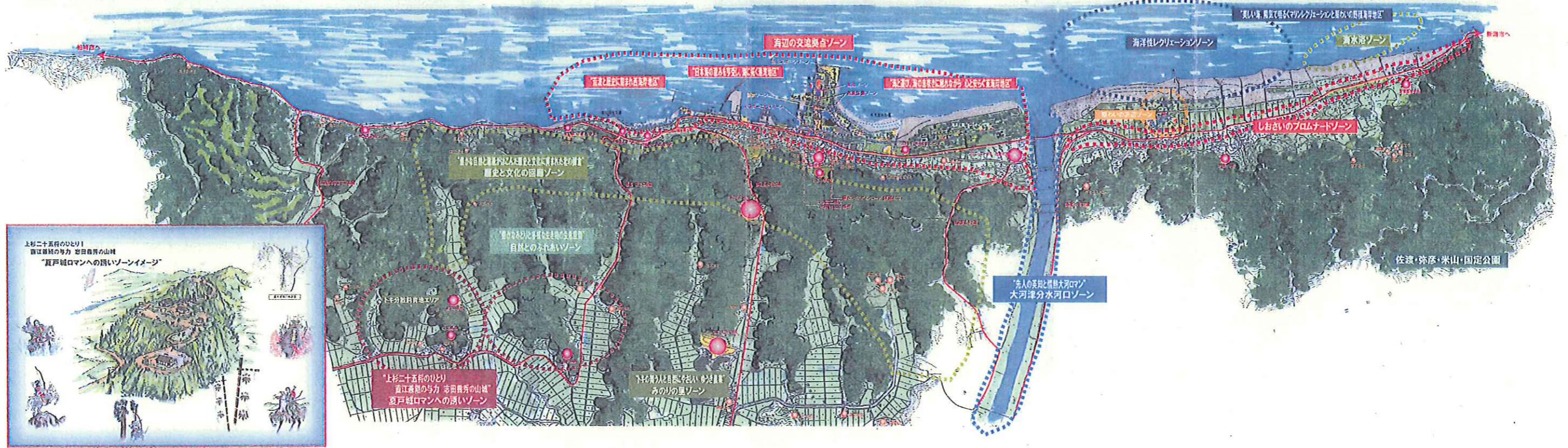
◆港湾地区 “日本海の恵みを享受し、海に拓く地区”

- ・陸上スポーツゾーン
- ・マリナーゾーン
- ・商業ゾーン
- ・バスターミナルゾーン
- ・親水ゾーン
- ・文化ゾーン
- ・教養保養ゾーン
- ・海水浴ゾーン (中央海水浴場)

◆東海岸地区 “海と遊び、海の息吹に触れながら心と安らぐ地区”  
 (キャンプ場・オートキャンプ場等自然の中で家族や友達等で楽しく過ごせるエリアを整備する)

# ■ 寺泊地区 まちづくりの提案

## 「海の寺泊」 人と自然と歴史が融合した活力あるまちづくり



◇野積海岸地区 “美しい海,陽気で明るくマリンレクリエーションと賑わいの地区

- ・海洋性レクリエーションゾーン (サーフボード・サーフィン等のマリンスポーツ等を楽しむためのエリア整備)
- ・賑わいの浜辺ゾーン (マリンスポーツを行う人たちのために、休憩施設・トイレ・駐車場・ショップ等を整備する)
- ・しおさいのプロムナードゾーン (海岸林を活用し、森林浴を行うための散策路を整備する)
- ・海水浴ゾーン (野積海水浴場)

## グリーン・ツーリズムを通じた寺泊の活性化策

にいがたグリーンツーリズムセンター  
所長 佐藤春夫

グリーン・ツーリズムとは農山漁村で楽しむゆとりある休暇のこと、都会では決して味わえない農山漁村の豊かな自然と親しみ、その自然に調和して営まれる農林漁業体験を楽しみながら学び、地域の生活、伝統文化、人々とふれあってゆっくり滞在することを目的とした旅のことです。

今回の提案はそのグリーン・ツーリズムを通して①地域内の連携を図ること  
②他地域との連携を図ることで寺泊の活性化を目指す提案です。

- 1 寺泊の歴史・文化を生かす
  - イ 寺泊から佐渡へ渡った歴史的人物やその時代背景を探訪し寺泊の魅力を探る
  - ロ 寺院の建立歴史や御本尊などを調べ、その時代における寺泊の役割などを探る
  - ハ 港から入ったと思われる文化を探る
- 2 生活要素から見た寺泊の魅力を生かす
  - イ 野積地区をはじめとした越後杜氏の歴史やその時代背景を探り、寺泊の役割などを調べる
  - ロ 北前船がもたらした文化を探る（物、習慣、歌舞音曲など）
  - ハ 漁業を通じた生活習慣や文化を探る
- 3 新しい取り組みのなかから寺泊の魅力や可能性を探る  
朱鷺の分散飼育を通じた新しい環境づくりと寺泊の役割

などいろんな切り口からまずみんなで「寺泊の財産」を探る。その作業を通して地域の連携をはかり、連帯感を醸成する。

次にそれらを他地域にアピールするために商品化をし、他地域からの交流者を増やし寺泊での活発な往来や交流を通して活性化をめざす。

「産業・建設・水道分科会提案（案）」

寺泊地域の環境と資源を活かした「地場銘製品の開発と特産ブランドづくり」  
による活力ある農山漁村地域おこし

事業名	地域特産ブランドづくりと地場銘製品の開発促進
趣 旨	<p>1) 農と海・観光資源と自然豊かな環境を活かした活力あるまちづくりを目指して、農業・漁業・商工・観光等が連携し、新たな住民協働参加による「物づくり・人づくり・まちづくり」のための地域ごとの自主・主体的な取り組みを推進する。</p> <p>2) このため、地域で生まれた多様な個々の特産物の掘り起しとPRを行う共に、新たな特産品づくりと地場銘製品の開発・販路拡大等に向けて、市・農協・漁協・住民が重点品目のブランド確立のために連携・協働活動を実施し、他に誇れる「売れる物づくりと人材の養成・販売施設・体制づくり」活動を総合的に取り組み、寺泊らしい活力あるまちづくりに資する。</p>
現状と課題	<p>1) 寺泊は、海岸地域に観光産業が定着し年間約250万人余の訪問者があり、更なる関連施設の活用や再整備を検討すると共に、農商工を含めた地域の特産品づくり・雇用の場創出が課題となっている。</p> <p>2) トキ分散飼育地の里山や海岸沿線の自然環境と豊かな資源を活かした、地域住民参加型のコミュニティづくりと、地消地産の確立に向けた住民意識の改革による自主的な協働活動の促進が求められている。</p> <p>3) 農・海産物、工芸・加工銘製品の個別ブランドを掘り起こし、地場銘製品としてのPRと人材交流を図り、地域ブランドとして競争力を高め有利販売することが期待されている。</p> <p>4) 特に、農村地域では特産物は点在するものの地域ブランドとしての体制・施設整備・販促活動が弱く、新規参入を含めた産地づくりの体制確立が必要不可欠となっている。</p>
事業目的	<p>1) 農山村地域の「トキ米寺泊コシヒカリ（仮称）」「地場産大豆加工品」「菜の花・油プロジェクト」等、農・海産物の高品質・付加価値づくりによる特産品づくりと有利販売体制の確立。</p> <p>2) 他地域に誇れる工芸・地場銘製品の掘り起こしとPR、体験交流の促進を図り、銘産ブランド品の生産販売の拡大を図る。</p> <p>3) 地場特産品販売、物づくり体験交流拠点の設置および地場産品の直売センター施設の既存施設を含めた活用整備が望まれる。</p> <p>4) 地消地産および海岸・農村地域連携による地域コミュニティづくりと意識改革のための研修会・交流会等を開催する。</p>
期待される効果	<p>1) 他に誇れる地場銘産品を格にした産業起こしと・観光資源化、生産販売など新規雇用創設が見込まれる。</p> <p>2) 農・海産物や工芸品等の寺泊地域銘産品づくり活動が加速され、自然環境を活かした地域コミュニティづくり活動に弾みが期待できる。</p> <p>3) 地域産品・観光情報発信の拠点づくりがなされ、産地イメージアップ期待でき、農村と海岸一体となった総合的なまちづくりが加速される。</p>